

講義

流通する学術情報コンテンツ

山本哲也

名古屋大学情報連携統括本部

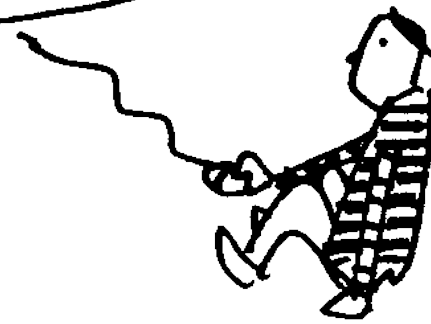
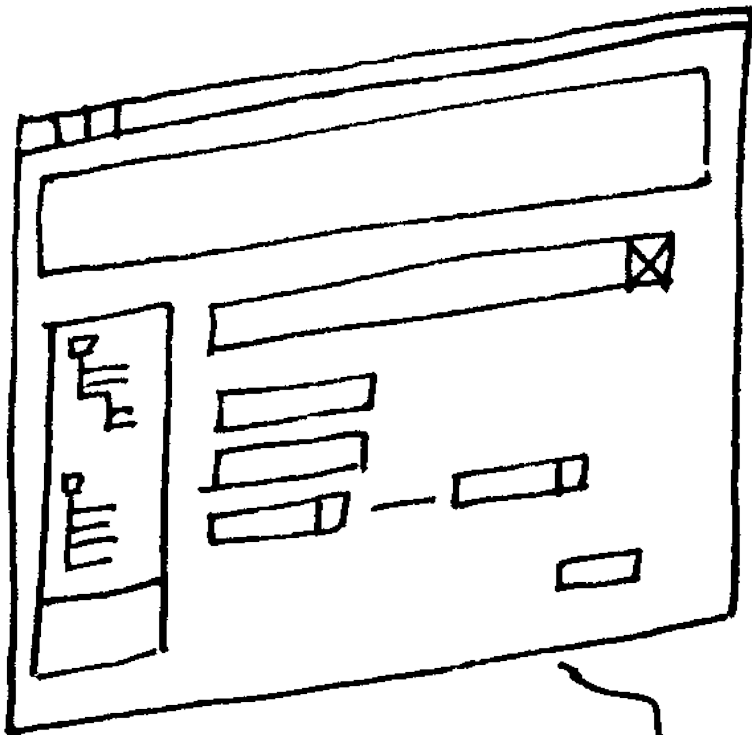
平成 25 年ウェブサービス担当者研修

2013.9.25

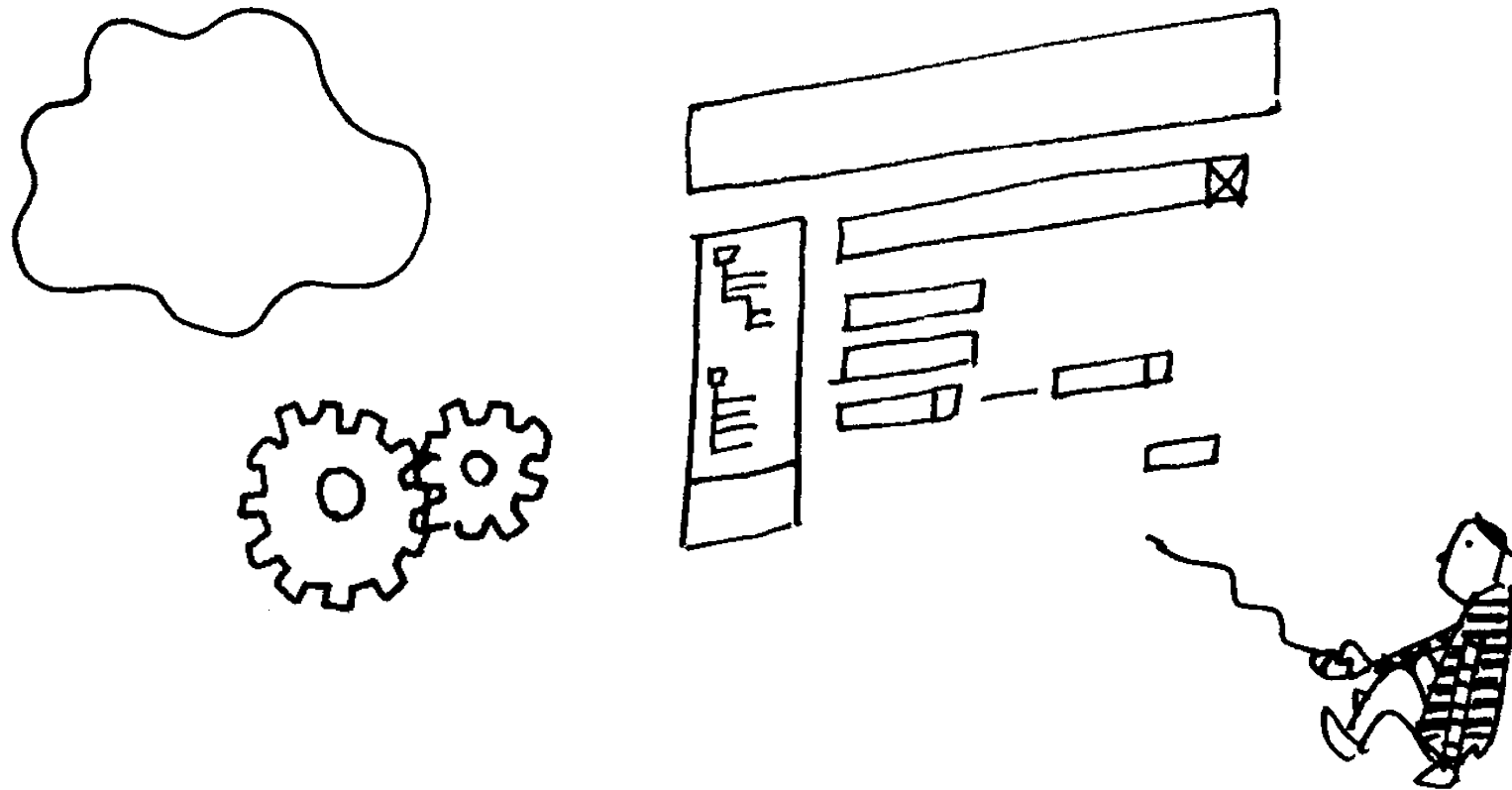
ウェブサービスの「絵」を
これから描くことになります。

気をつけるべきことは
いくつもありますが…

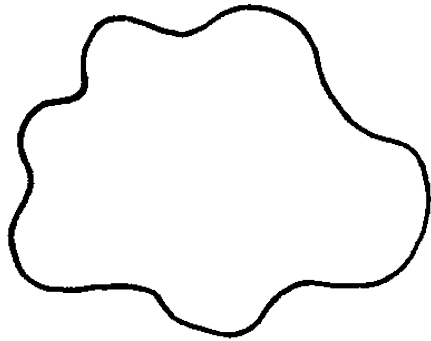
今回は「データ」の話です。



ウェブサービスをいくつかの要素に分けてみると、例えばユーザーインターフェース、メカニズム、そしてデータという分け方が可能ではないでしょうか。



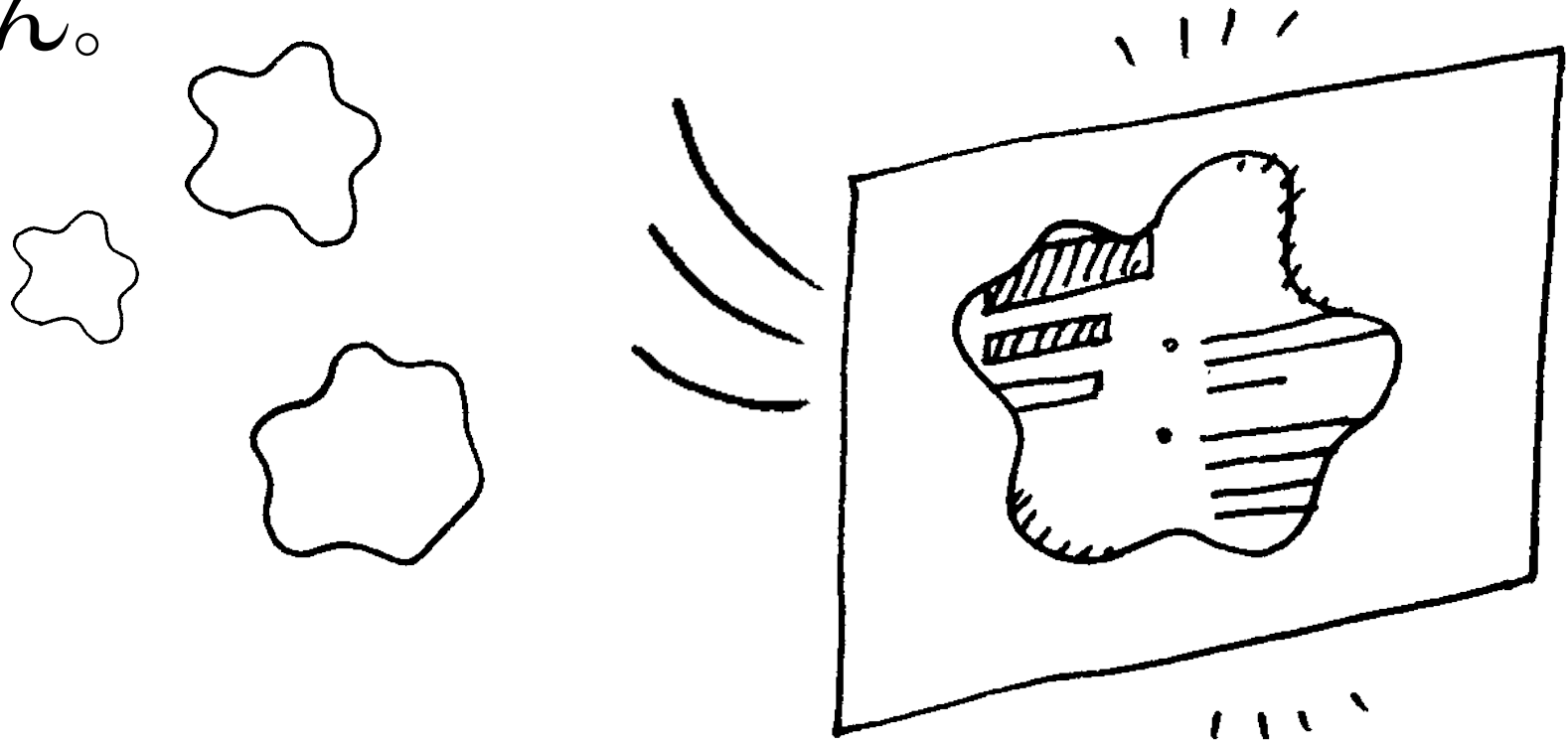
ウェブサービスの実際の作り方に関わる知識は多岐に渡り、とても簡単には見渡せません。ですが、データだけに注目してみることで、最初の検討をするための手がかりが得られやすいでしょう。



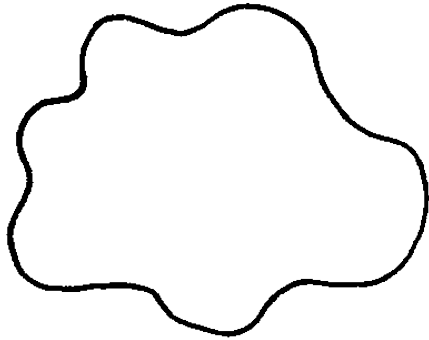
↑ ユーザーの目にとまる場所と、難しいメカニズムを取り除いてみたら、データが残りました

データそのものは、何か具体的に目に見えるものではなく、コンピュータに入っているとも限らない、非定型なものです。

何かのメカニズムで画面に映すことはできるでしょうが、それが実体なわけではありません。



データの種類…



画像、音声、動画、論文、商品カタログ、伝票、操作履歴、なんでも。

何がデータの「一単位」なのかは考え始めると難しいですが、データベースの知識や、ある程度の常識に頼りながら進めることになるでしょう。

メタデータもデータです。

例：ある機関リポジトリ収録物

The screenshot shows a web browser window displaying the NAGOYA Repository page for a specific digital object. The browser address bar shows the URL: ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/16265. The page header includes the NAGOYA Repository logo and the text "About DSpace Software".

On the left side, there is a navigation menu with sections: "Search DSpace" (with a search box and "Go" button), "Advanced Search", "Browse" (with links for Communities & Collections, Issue Date, Author, Title, and Usage Stats), and "Sign on to:" (with links for Receive email updates, My DSpace authorized users, Edit Profile, Help, and About DSpace).

The main content area displays the following information:

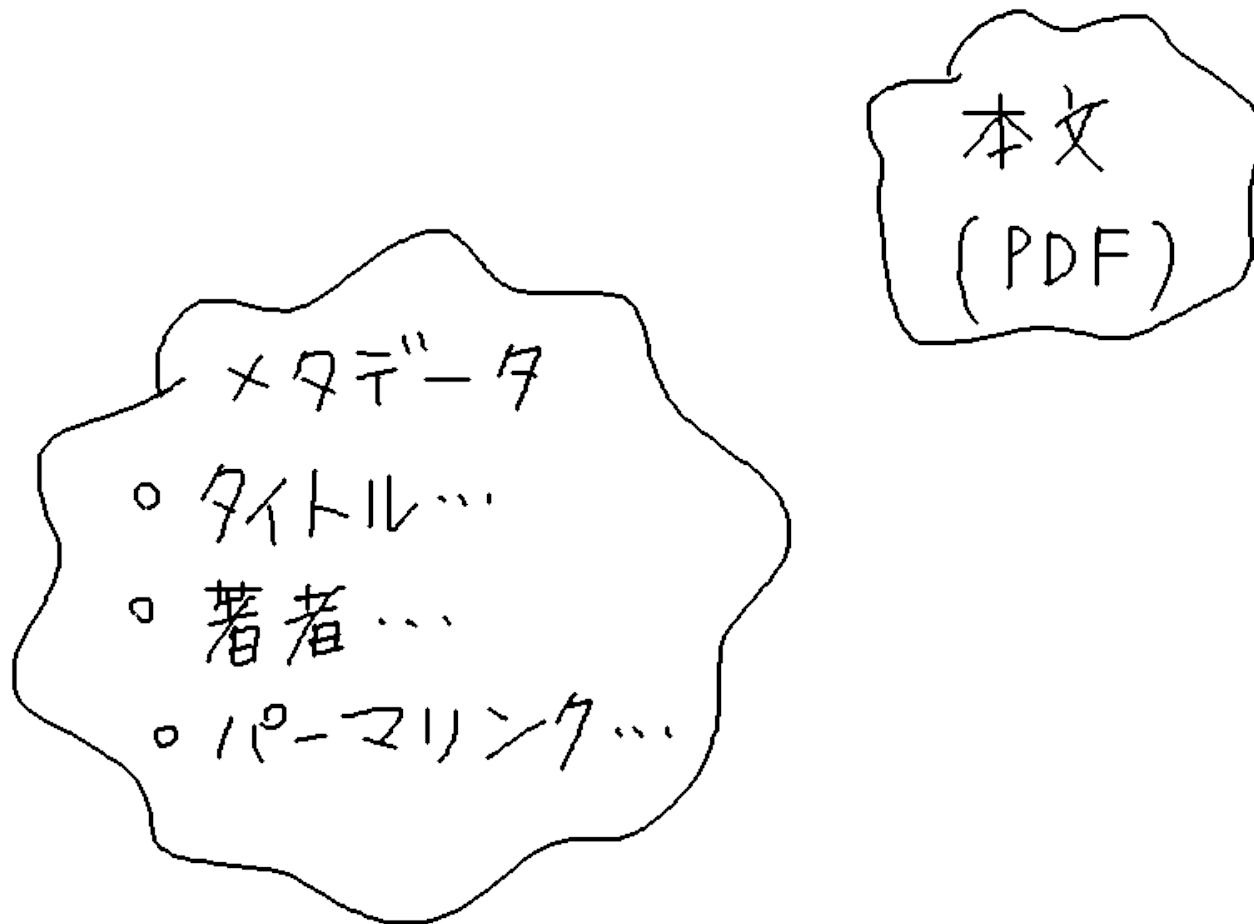
- Path:** NAGOYA Repository > F200 附属図書館研究開発室 > F200b紀要 > 名古屋大学附属図書館研究年報 (Annals of Nagoya University Library Studies) >
- Citation Identifier:** Please use this identifier to cite or link to this item: <http://hdl.handle.net/2237/16265>
- Title:** 図書館業務に必要な基礎的IT(情報技術)技能について
- Other Titles:** Basic IT skills needed for library work
- Authors:** 山本, 哲也 YAMAMOTO, Tetsuya
- Keywords:** Training, Information technology, 研修, 情報技術
- Issue Date:** 31-Mar-2012
- Publisher:** 名古屋大学附属図書館研究開発室
- Citation:** 名古屋大学附属図書館研究年報. v.10, 2012, p.13-23
- Abstract:** Many parts of work in libraries depend on a wide range of IT knowledge. Appropriate planning of IT training programs is necessary to improve information security, efficiency, and quality of daily work. This article lists possible kind of IT knowledge and describe how they can be applied to working areas.
- URI:** <http://hdl.handle.net/2237/16265>
- ISSN:** 1348-687X
- Appears in Collections:** 名古屋大学附属図書館研究年報 (Annals of Nagoya University Library Studies)

At the bottom, there is a section titled "Files in This Item:" containing a table:

File	Description	Size	Format
02_yamamoto.pdf		948.83 kB	Adobe PDF View/Open

Below the table, there is a button labeled "Show full item record".

データとしては、こんなもの？

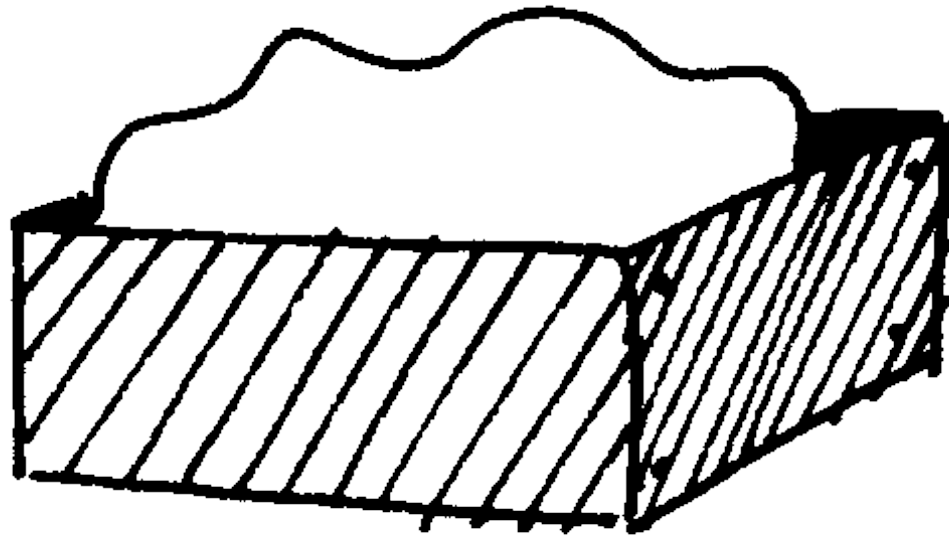


わざとフニャフニャに描いています

データの種類によっては、そのデータに「パーマリンク」があるかを意識しましょう。

そのデータがウェブで表示されているとき、そこにリンクが、あるいはブックマークができるか、というのと似た意味です。

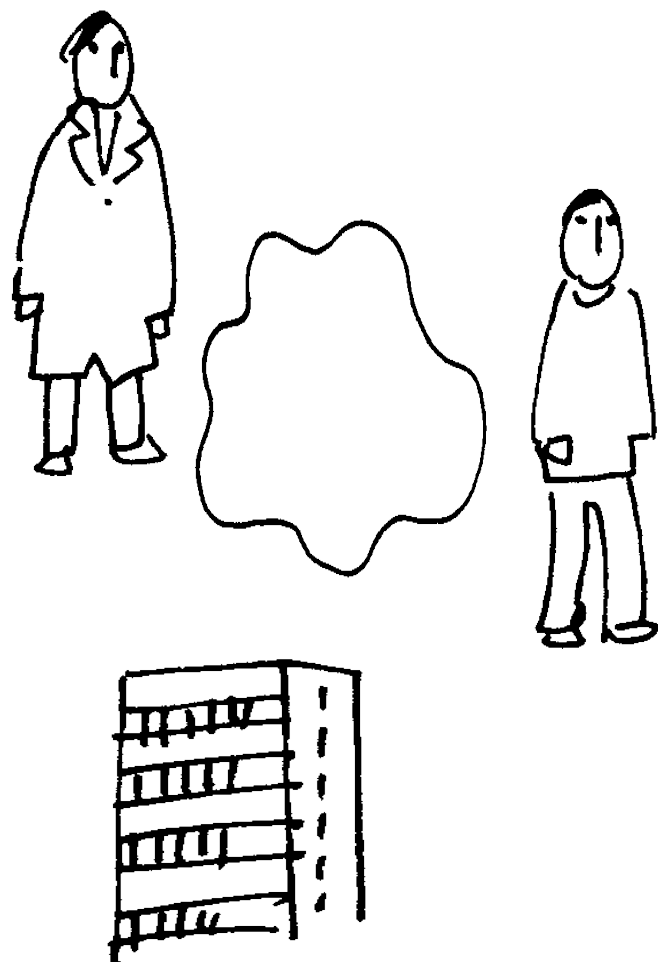
ウェブを対象にする以上、データにはやはりコンピュータで扱うための何らかの形式が必要です。「器」に納まった様子などを想像しましょう。



XML、CSV、リレーショナルデータベース、云々…

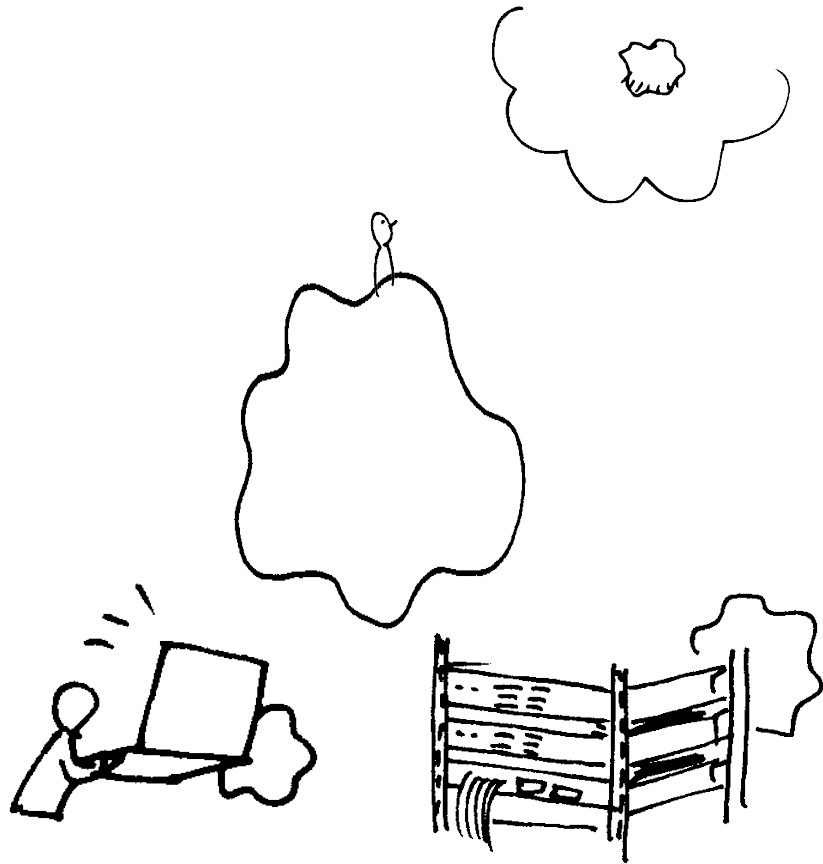
こういった知識はもちろんあると望ましいですが、サービスを発想する時点でそれにとらわれる必要はありません。

データはどこで発生するか



学術情報を作り出すのは主に研究者ですが、それに付与する有用なメタデータを作り出す人もいますし、サービス利用者自身が作り出すデータもあります。また、すでに公開されていてオープンに利用できるデータもあります。

データはどこに納まっているか



サービスを稼働させているサーバーにほとんどのデータが納まるのが普通でしょうが、時にはユーザーのコンピュータ内にデータが置かれることもあるでしょうし、クラウド的にWEB-APIなどを通じてしか得られないデータもあるでしょう。

このデータで、他に何ができる（できない）はずだろうか。



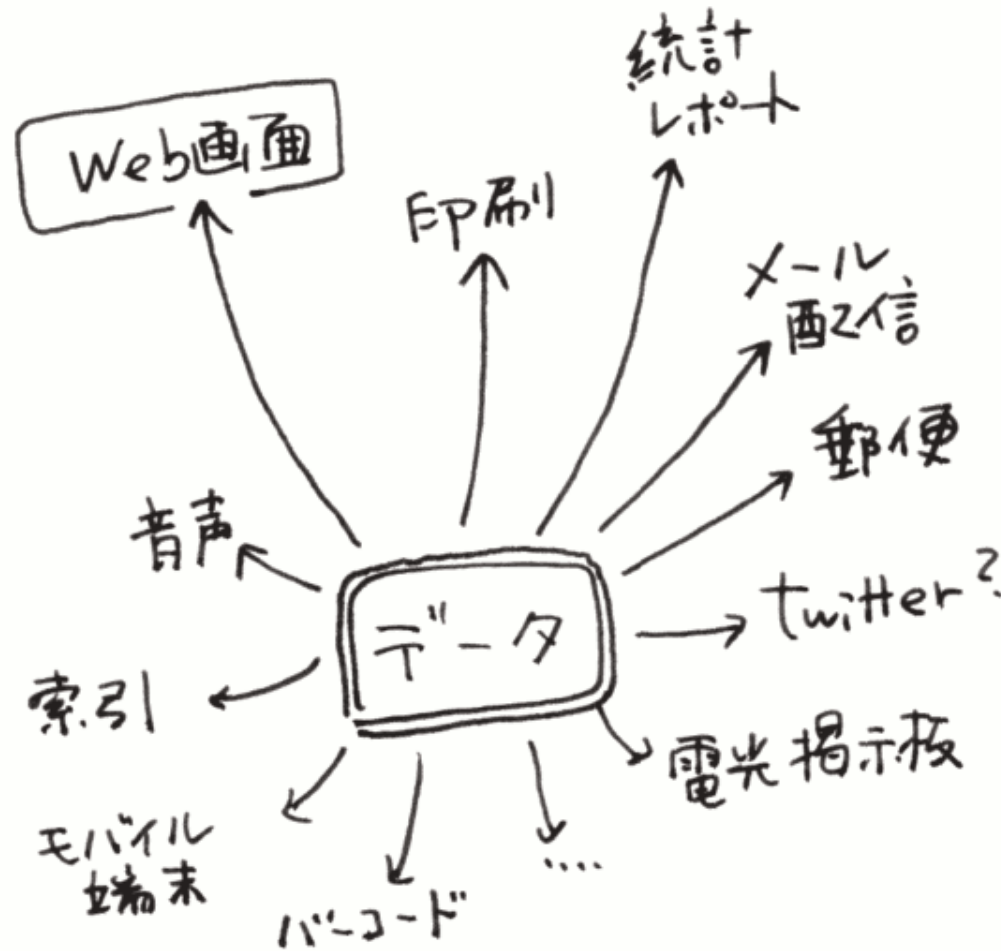
すべてのアイテムに登録日時が
あれば、それを手がかりに
最新登録リストができる...



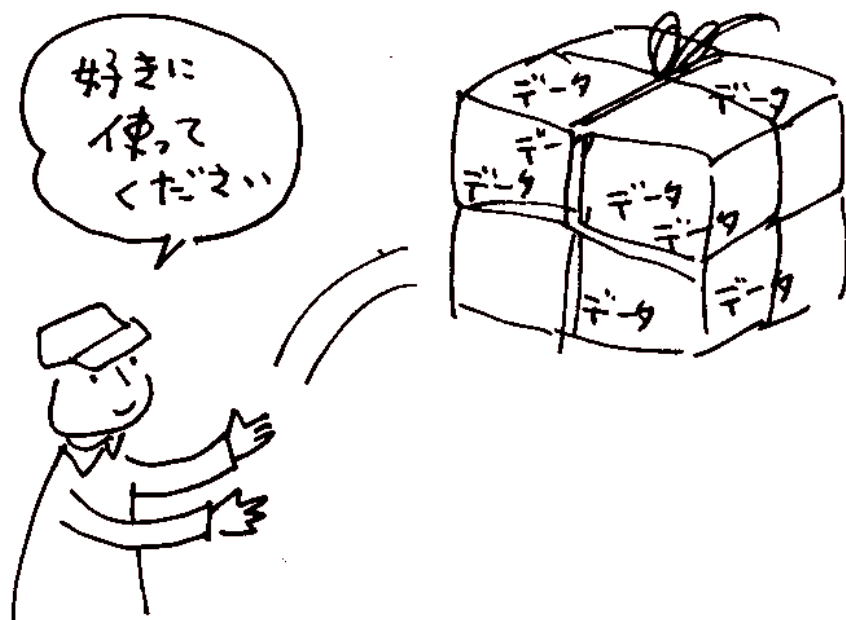
PDFに文字情報がちゃんと入って
いるなら、全文検索の材料になる...

※実際のやり方に関わるどころやそのコスト感はプロの領分な
ことが多いですが、思いつくところは我々の仕事です。

Webで見せる、以外のデータ表現には、どんなものがあるだろうか。



自分たちがサービス用に作ったデータを、データとしてそのまま投げ出してしまおうという「使い方」もあります。



OAI-PMH とか
RSS とか
その他の WEB-API とか

未知の活用法を誰かにゆだねています。

データを他者から借りて使ったり、自分達のデータを渡して利用を任せたりするとき、「標準に従っている」ということは重要な意味があります。

MARC とか
JUNII2 とか

ウェブサービスを見るときに、ウラにある
「データ」のことも考えられると、企画・設
計にもリアリティが出る…かもしれません

